

「尺八—知識と奏法—」改訂版を上梓して

中島聖山



「尺八の歴史」(ドイツ語対訳)は、その彼女の出会い、そして彼女との対話をきっかけに素材が順次固ってききましたので、私はそれを一つの記述としてまとめあげ、結婚式まで自費出版として発行し、当日の記念品としてまとめ上げようとしたのが、本当の動機でした。それはまた、とりもなおさず、アネテへの最高のプレゼントだとも考えたのです。

そして、その自費出版の「尺八の歴史」が東京の出版社の目にとまり、さらに加筆して「尺八—知識と奏法」が、昭和57年11月(ぎょうせい)から出版されたのです。こうして、多くの人達の協力により出来たのが「尺八—知識と奏法—」でした。書き出すきっかけ

が、尺八音楽周辺に関する知識の説明だったことから、初版の内容は尺八の歴史や音楽理論等が中心で、尺八音楽を志す人達の副読本的なものでした。この度の改訂版では、初版の欠点を補い、奏法編の充実に精力を費しました。岡田式静坐法や二木式呼吸法など、他の教則本に書かれていない演奏以前の基本的な事柄やコンピュータ言語の習得用テキストに使用されるプログラム学習方式に基づく練習曲などを増補し、初心者や独学で尺八の稽古に励んでいる人達にも利用していただける内容にしたつもりです。

尺八も満足に吹けないのに、何故著述に手を出すのか、そんな時間があれば、もっと吹奏の稽古をすればいいのにと笑われるかも知れない。しかし、本を書いてみて、今迄長い間尺八を吹いていたにもかかわらず、習得できなかった数

多くの事がらを知ることができました。本を書いて貴重な体験をしたり、勉強になったりしたのは、何を隠そうこの私だと思えます。尺八に関する本は、やはり尺八吹きが書くべきだと、つくづく感じさせられました。

新しく尺八を始めた人から、尺八音楽全般を知るための書籍の紹介を依頼されることが良くあります。そうした時には、奏法から楽典、歴史にいたるまで、適当に詳しい内容で一冊にまとめた書物が見当らず困っていました。今回の改訂版が、そうした人達に利用されれば、これ程うれしいことはありません。

そして、私自身も生涯かけて納得いくまで、この一冊の本を改訂し続けたいと思います。

★尺八—知識と奏法(改訂版)中島聖山著・ぎょうせい・5,000円
第一章 尺八の演奏法、第二章 日本音楽の基礎理論、第三章 尺八の歴史(尺八の歴史年譜)。総頁233頁。序文より「尺八吹奏の実践面の解説もきめ細かく行き届いていますが、それだけでなく、理論や歴史の面の解説も当を得て非常に分かりやすく書かれています。全体に理知的で明快な印象があります。」(東京芸術大学助教授・上参郷祐康)



本造りの原点になった「尺八の歴史」(ドイツ語対訳)を出してから、すでに七年たちました。その間に六冊の拙著を出版しましたが、どれも、書こうと思って書いたものではありません。そもそも「尺八の歴史」を書くことになった発端は、私が青春を駆け熱中した尺八音楽について、一人の女性に理解してもらおうと一生懸命話して聞かせたことによりです。ある時は尺八の流派について、またある時は虚無僧について、尺八は日本古来の楽器なのか、音階はどんな形式をとるのか等、彼女に聞かれるままに、知っている限りのことを話してやりました。

彼女が概括的な私の説明に満足せず、次から次へと質問を浴びせ、より詳細な説明を求めました。そして、つじつまのあわないところや史実なのか伝説なのか、推論な

のか明確でない部分等、ドイツ人らしく論理的な説明を要求しました。彼女との出会いにより、それまで私が尺八音楽に関する知識だと思込んでいたものは、断片的で物語的なものであることに気がきました。そうした想いは、拙著「尺八の歴史」をまとめるに当り、なお一層強まりました。少しでも史実に基づいた内容にしたいと思ひ、文献目録から関連する書物を探し出し、大学に勤務する友人に頼んで、所蔵する大学から借りてもらい、ひと通り目を通しました。とくに上京し、国立国会図書館まで行ったこともありました。北海道を本場に不便な所だと感じたのも、この時でした。

中島聖山 新都市流尺八聖琳社主宰、虚無僧研究会々員、東洋音楽学会会員、創明音楽会会員、新音楽集団「群」同人。札幌市民芸術祭奨励賞受賞。

ひとすじの糸に、心をこめて……

三味線

琴・三味線の専門店



小玉楽器店

札幌市中央区南2条西8丁目
☎(011)231-8300・241-2560